

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300255		
法人名	郡山医療生活協同組合		
事業所名	グループホームひなたぼっこ		
所在地	福島県郡山市島二丁目23番17号		
自己評価作成日	平成26年1月30日	評価結果市町村受理日	平成26年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成26年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> * 利用者が自分らしい生き方ができるよう、ひとりひとりによりそう介護を支援している。 * 住み慣れた地域の人や場所の中で、今まで通り暮らせるために、地域づくりをすすめている。 * 誰もが生きがいをもち楽しく過ごせるよう支援している。 * 健やかに、安心して暮らせるよう協力病院との連携を図り、必要に応じて通院の支援を行っている。 * さまざまな方々との交流をすすめ、ひなたぼっこ職員の成長をめざしている。 * 利用者本人・家族の要望にその都度応えている利用者も職員も仲良く、楽しく生活をしている
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療生活協同組合が運営しており、1階がデイサービス、2階は小規模多機能型居宅介護事業所とグループホームが併設され、三事業所で職員間の連携や利用者同志の交流を図りながら、資質向上の為に研修、運営推進会議、災害訓練等を合同で行い効果的な運営がなされている。 2. 2階から避難誘導するため、スロープ(滑り台)が設置され、利用者が安全に避難することが出来るよう工夫がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について、管理者と職員で検討している。	現在掲げている理念を更に高める為、管理者と職員は地域密着型サービスの意義と利用者への介護サービスの質の向上の実践に繋がるよう事業所独自の理念の作成を検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	防災訓練やお祭りなど、地域の方々に協力を得て開催している。また、当施設では、町内会の資源回収などに協力している。	事業所行事の防災訓練やお祭り等に地域の方の協力が得られている。また、町内会の資源回収にも参加協力をしている。事業所内の一室を開放し映画を上映したり、施設見学等行い交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の特徴について、見学に来た方に説明している。運営推進委員会の場で事業所の特徴や現状を報告し、意見をいただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	推進会議には、利用者2名の参加を得ている。事業所の状況を報告し、地域の方、地域包括支援センターの方などから意見を頂いてサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は定期的開催され、地域の方や利用者、民生委員や地域包括支援センター職員等で構成され、利用者の状況報告や委員からは質問や情報提供を得ている。会議記録については、今後検討していく課題があると思われる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度は防災学習会の強化のため、市に相談し助言を頂き実施した。安積疎水の氾濫については、土のうを150個、市からいただいた。	市の介護相談員は定期的に訪れ、利用者や家族の意見、要望が事業所に伝えられ、サービスの向上に繋げている。事業所の支援内容や取り組み方についてお話をしながら、協力関係が継続出来るような計画もしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会にて、職員間の知識を深め、拘束・抑制がないよう意識付けしている。	身体拘束をしないケアについては、法人や事業所内の学習会、外部研修に参加した職員が資料を持ち帰り職場会議で報告するなどして、身体拘束をしないケアの意味を理解し、実践に繋がられるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会を開催し、虐待について学び、正しい知識のもとで、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会を開催し、権利擁護について学習する機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定などの際は、十分な説明を行い、利用者様・ご家族様の合意のもと、利用していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望は外部者(第三者委員・行政)に相談する窓口を設けている。第三者委員会(年2回)を開催し、意見交換している。 運営推進委員会等で意見、要望を受け、運営に反映させている	家族の来訪時にお話をしたり、法人独自が作成した利用者アンケートを用い家族からの要望、意見を把握し、それらを法人介護事業部で検討し健康維持、外出支援等、介護サービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場会議や日常業務の中で(朝のミーティング・棟ミーティング・事故ミーティング等)の機会に意見をすいあげ反映させている。	管理者と職員、職員同士の意思疎通がスムーズであり、良好な職場環境にある。職場会議に於いて意見や提案を聴き取り、資格取得支援も行なわれ離職率が低く、職員の質の向上へと繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の実績、勤務状況を把握し、処遇改善を行っている。労働組合と共に労働条件の整備に努めている。随時職員と面談の機会を作り、意欲的に仕事ができるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	プリセプター制の導入や職能要件書を使い、教育に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等で他事業所職員と情報交換や交流を図り、現場職員と共有し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望や意見を聞き、また、要望や意見を言いやすい環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の要望や意見をよく聞き、安心して利用していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族様とその都度話し合いをする機会を設け、その本人と家族にあったサービス提供ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で信頼関係づくりに努め、介護する、介護されるという立場を意識しないで過ごせるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様を通し、家族との信頼関係を作り、本人と家族の絆を大切に深めていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様が訪問され、お話がゆっくりできる環境づくりに心掛け、多くの方々に訪問していただけるよう努めている。近所への買い物や外泊・外出(自宅等)の支援を行っている。	訪問される家族への支援や親戚、友人との関係継続、以前出掛けていたデパートや近所のお店で買い物をするなど、馴染みの人や場との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの関係作りに心掛け利用者様が孤立しない様、職員が仲立ちしながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了されても、本人、家族からの相談や支援ができるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者同士の会話から、本人の意向を把握するよう努め、職員間で共有している。	職員は利用者との日常の会話から思いや意向の把握に努めている。誕生日の近い方、食事の時、テレビを見ている時、入浴時などに食べたいものや外出先など一人ひとりのニーズの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の記録の把握や日々の利用者の会話、行動の中から、これまでの暮らしを把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のその日、その時の状態を注意深く観察し把握している。また、本人の有する力に応じて、余暇活動の提供、家事の実践を支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を実施したり、本人や家族の意見を情報として収集し、介護計画作成に反映させている。	担当職員、訪問看護師からの情報やケアマネージャー、家族からの要望等を取り入れた介護計画書作成に取り組んでいる。入院状態が重度化して戻られた利用者への支援が適切になされたことにより健やかに暮らしている事例がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間のカードックスを記入し、それをケース記録に残したり、職員間で申し送りや情報を共有して実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の意思を尊重し、新しいニーズに対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々に訪問していただき、利用者の方とお話をいただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医に引き続き受診を行っていただき支援している。また、受診できない場合、往診や家族と連携を取り、受診支援を行っている。	かかりつけ医は入居時に利用者、家族の希望を伺い支援をしている。殆どの利用者が同じ地域内にある法人の医療機関によって適切な医療を受け、状況報告はお便り等で家族へ連絡をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師に利用者の状態を報告、相談し、処置や受診の指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、病院関係者に施設での情報を提供したり、退院に際しての受け入れなどについても意見交換し利用者が安心して入院療養や退院後の当施設での生活ができるよう医療機関と連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の方を受け入れ、家族や医療機関関係者と話し合いをすすめ、チームで支援に取り組んでいる。	今年度、重度化した場合に事業所としての対応を文書化した指針と同意書を作成した。更に、看取りについて内部研修会を開き、利用者や家族、関係者と話し合い、全員で共有し支援していくよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会などで、対応の仕方を学んだ。今後訓練を定期的に行っていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に地域の方にも協力していただきながら訓練を行っている。また、消防署員を講師に招き学習会を開催したり、DVDを観て、利用者・職員共に学習会を行っている。	事業所が2階にあるため、非常口階段の他にスロープが設置され、利用者の安全に配慮している。年2回、同法人の他事業所と合同で避難訓練を実施しているが、様々な災害に対しての自主訓練回数と備蓄の整備がされていない。	職員全員が利用者を安全に避難させられるよう様々な災害を想定した年間スケジュール表を作成し訓練の回数を増やし、地域との協力体制の充実や非常用食料、備品の整備が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々利用者の会話を傾聴し、入浴介助やトイレ介助など羞恥心を常に考え配慮している。	利用者の人格を尊重し、利用者に配慮した言葉遣いを心がけ、利用者のプライバシーを損ねない接遇を学習して支援をしている。個人情報が含まれる様々な書類の管理については適切に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時その時の利用者本人の気持ちを大事にし支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの能力などを日々ミーティングなどで話し合い、その日その日の生活を希望に沿って提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケア時に本人の意見を尊重し、身だしなみを整えている。また、希望に応じて理美容の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事係を中心に利用者の好みや意見を聞いて、普段のメニューや行事食のメニューを作成している。食事作りや片づけなど利用者に行ってもらっている。	誤嚥を防ぐ為の口腔体操を行い、食事の下ごしらえ、味付け、後片付け等を行い、利用者と職員は会話をしながら楽しく食事をしている。誕生会や行事食には利用者の希望をメニューに取り入れ、外食支援も行なわれ喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量と水分摂取量をチェックし、摂取量不足の場合は捕食を提供したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人一人にあった口腔ケアを行い、口腔内観察を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、誘導・見守り・一部介助にて支援している。なるべくおむつの使用を避け、残存機能を活かした支援を心掛けている。	排泄チェック表にて一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレへ誘導し自立に向けた支援を実施、トイレでの排泄を基本として見守りを行っている。利用者の居室の隣にトイレがあり、夜間のトイレ利用が容易である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	機能訓練等の運動や栄養のバランスを考慮した食事・水分補給に配慮し、便秘を予防している。排便状態により、看護師と連携してコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2～3日に1回全員入浴できるよう、スケジュールを組んでいる。本人の意思に沿うよう時間帯など配慮して行っているが、どうしてもそぐわない時は十分に説明をして一人一人の理解を得るように努めている。	風呂は併設の施設と共用なことから、午後からの利用であるが、入浴設備は機械浴、個浴があり、入浴時間は利用者の希望に合わせている。季節に合わせたゆず湯、菖蒲湯や好みの入浴剤などを使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の睡眠パターンや疲労度も考慮しながら、休息を促している。また、安眠できるよう環境整備に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の使用薬剤を職員が理解し、その副作用等について学習し、症状の変化を職員間で共有している。また、看護師と連携をとりながら服薬支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力・意欲などを考慮し、生活での役割の活動の提供をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人一人の希望に沿って戸外に出かけられるよう支援している。	暖かな日は近隣の公園を散歩したり、おやつなどの買い物や、毎月本を買いに法人の病院の売店まで職員と出掛けたり、季節に応じて花見、紅葉狩り、足湯などの外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる利用者は少ないが、なるべく残存能力を活かしながら買い物など自分でできる支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者より希望があればやり取りできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、利用者が過ごしやすいよう、電気の灯りや温度の調整をしている。また、花を飾ったり、壁画を作ったり、季節感を味わえるよう工夫している。	居間兼食堂のガラス戸から陽が差し込み、明るく穏やかな雰囲気である。共用空間はソファやマッサージ機が置かれ、ゲーム機、手芸材料、本等、思い思いに過ごせる工夫が見られる。玄関の棚には日本人形や木彫りの置物、クラフト作品が飾られ生活感を与えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、一人一人過ごしやすいようテーブルやソファの位置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	利用者の居室には、利用者が安心して居心地良く過ごせるよう家具の配置や壁の装飾を工夫している。	自宅から、テーブル、椅子、テレビなど、使い慣れた物を持ち込み、利用者が使い易いように置かれている。家族の写真や自分の作品を壁面に貼るなどしてそれぞれに工夫している。ベットの向きも利用者の希望に合わせて対応し、空調も管理され居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の能力に合わせ、介助を行ったり、自立した生活を送れるよう工夫している。		